

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

焼肉屋でランチをした帰りのレジにちいさな籠^{かご}があつて、そこにカラフルな飴玉^{あめだま}がたくさん入っていた。透明なフィルムに包まれた飴玉には、黄色、黄緑色、水色、オレンジ色、紫色、薄桃色、透明があつて、どれもとても淡い色できらきらしていた。

普段、焼肉屋のレジのこういうお口直しは貰^{もら}わない。おいしい焼肉を食べたあとは口直しなんてもつたいたない、できるだけ長く口内をその余韻^{よご}にしておきたいと思つてしまうのだ。しかしその日は透明な包み紙に包まれている飴になぜか猛烈^{もうれつ}にこころ惹^ひかれた。おそらくぶどう味だろうと思ひ、ミドリがお会計の小銭^{こせに}を受け取つている隙^{すき}に紫色の飴玉をひとつ貰^{もら}うと、レシート^Xを貰い終えたミドリも同じ色の飴玉を手にとつた。お店の自動ドアを出て、車に乗りこむまでのほんの数秒の間で、わたしたちは飴玉を口に含^くんだ。

「ぶどうあじあじだ。」

とわたしと言うと、彼は聞き間違^{まちが}えたのかという顔で首をかしげた。

「ぶどうあじあじだよ。ぶどうの味じゃなくて、ぶどう味の味がするの、わかる？」

あー、と彼は飴を左右の頬^ほに移動させながらその味を確かめているようだった。ぶどうあじあじだよ、これが。なんかすつごく久しぶりにこういう味食べる気がしてうれしいなあ。ふふ、本当にぶどうあじあじだ。わたしは口の中ですごうとうとう飴を転がしながらここに車に乗りこんだ。

わたしが小学生だったころの駄菓子屋^{だかしや}には、まさにぶどうあじあじのように、いちごあじあじや、メロンあじあじのお菓子がたくさんあつたような気がする。その果物そのものではなく、あくまで「いちご味」の味や、「メロン味」の味なのだ。わたしはそれを人工甘味料^{じんこうかんみりょう}がどうか目くじら立てるつもりはない。「あじあじ」たちのことも、それはそれでとても好きだ。

もうずいぶん前から、果物のお菓子は果汁^{かじゅう}をそのまま詰^つめこんだように濃縮^{のうしゆく}されたジュースを飲んでいるような味に進化したように思う。特にグミ。もはやその果物を超えてしまつていてのではないかと思うくらい、果汁の酸味や甘みが濃い。飴も、ガムも、アイスも、ジュースも、みんなみんな「ぶどうあじあじ」から「ぶどうそのもの」を求めて進化してしまつた。だからいま、お菓子売り場でこうした「ぶどうあじあじ」のものを探すほうが難しい。

ぶどうあじあじからは、どんくさいサービス精神を感じる。みんなが大好きなぶどうの味をがんばつてすこしでも再現してみようと思ひます！と言わんばかりの、それでいてそこまですごくいい不器用さのようなものもあり愛^{いと}しい。

包み紙のシンプルさも、ぶどうあじあじの魅力^{みりょく}を最大限に引き出してくれたのかもしれない。たとえばつやつやの巨峰^{きよほう}のような絵が描かれた濃い紫色の包み紙からぶどうあじあじの飴が出てきたら、たぶんちゃんとがっかりするだろう。七色の飴が何も描かれていない包み紙に包まれているからよかったのだ。

わたしたちは紫色だからおそらくぶどうだろう、と信賴^{しんらい}してその飴を口へ入れて、ぶどうあじあじに「やつぱりぶどう！」と喜ぶ。わたしがお菓子に求めているうれしさは、きらつとひかる薄紫の「やつぱりぶどう！」くらいがちょうどいい。

(くどうれいん『桃^{もも}を煮^にるひと』による)

問一 線部1「ぶどう味の味」とはどのような味ですか、答えなさい。

問二 線部2「つやつやの」がっかりするだろう」とありますが、どうしてですか。理由を答えなさい。

問三 線部X「レシート」のように、「ート」で終わる外来語はたくさんあります。1～5の意味になるそのような言葉を、()内の文字数になるように、解答らんに合わせて答えなさい。

- | | | |
|----------------------|-----------|---------------|
| 1 警報 (四字) | 2 支援 (四字) | 3 スポーツ選手 (五字) |
| 4 遠くはなれた所から行うこと (四字) | 5 旅券 (五字) | |

問四 線部Y「目くじら立てる」とありますが、次の1～6の「目」を使った言葉に、(I)(II)の語群にある言葉を正しくつなぎ、慣用句を完成させなさい。(I)(II)の言葉は同じものを何度使つてもかまいません。

- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| 1 裏目 | 2 大目 | 3 駄目 | 4 目頭 | 5 目先 | 6 目鼻 |
|------|------|------|------|------|------|

- | |
|------------------------------|
| (I) が と に へ を |
| (II) 押さえる 押す 変わる 使う 付く 出る 見る |

問五 問題文中のZについて、次の問いに答えなさい。

A Zに、「お」「を」「う」のいずれか一つを入れて、正しい表現を完成させなさい。

B 次の1～5の文の□に「お」「を」「う」のいずれか一つを入れて、正しい表現を完成させなさい。

- 運動会の開会式で、き□つけの号令をかける。
- 元日に早起きをして、初も□で出かけてきた。
- 生活が苦しくて月々の返済がとどこ□っている。
- 不正を働いていたことが、お□やけになつた。
- やむ□えず急停車いたしますのでご注意ください。

二 次の俳句は新年から春夏秋冬の順でならんでいます。1

6 に入る語として最も適当なものをそれぞれ後のア～シから選び、記号で答えなさい。ただし、同じものはくり返して使えません。

- 1 のすずやかに粥透きとおる 谷本元子
- 2 紅白の枝差し交す 浄土 野間口一夫
- 3 の花長うして雨ふらんとす 正岡子規
- 4 のどの花となく雫かな 岩井英雅
- 5 葉洩れ日の粒の不揃い 園 片山由美子
- 6 のひかりの棒をいま刻む 黒田杏子

- ア あじさい イ 梅 ウ さくら エ 山茶花
オ 齒染 カ すずしろ キ 椿 ク 葱
ケ 向日葵 コ 藤 サ 葡萄 シ 紅葉

三 次の各文の に入るひらがな三字の適当な言葉を答えなさい。なお、 の言葉は上と組み合わせ一つ一つの言葉になります。ただし、同じ言葉はくり返して使えません。

(例) 葬儀にはみな黒 の服装で参列していた。 答 ずくめ

- 1 おため ではなく、心から君に親切にしているのだ。
- 2 この事業からは、ゆき 上、手を引くわけにはいかない。
- 3 事件のあらましについては、現場への道 話そう。
- 4 となりの家とは、長年にわたり家族 のつき合いがある。
- 5 友達と遊ぶ約束をしていたのに、待ち をくわされた。

四 次の各文の に入る言葉として、最も適当なものをそれぞれ後のア～オから選び、記号で答えなさい。ただし、同じものはくり返して使えません。

- 1 あんなに会いたがっていたのだから、 来ないことはあるまい。
 - 2 彼女は とりすました感じの良家のおじょうさんだった。
 - 3 彼の参加を認めるか認めないかは、運営側にとっても できない問題だ。
 - 4 ここまですすめてきたからには ほとんどりはできませんよ。
 - 5 社員たちの言い分を聞いていた社長は、 口を開いた。
- ア いささか イ おもむろに ウ なおざりに
エ もはや オ よもや

五 和語と漢語では、和語「みぎひだり」・漢語「左右」、和語「あとさき」・漢語「前後」のように順序が逆になるものがあります。そのようなものを次の1～4の語群からそれぞれ一つずつ選び、対応する漢語とともに答えなさい。

- 1 いきしに うりかい やまかわ よるひる
- 2 あけしめ かちまけ のりおり みちひき
- 3 あにおとうと あねいもうと ちはは めおと
- 4 うえした たてよこ にしひがし ゆきき

六 次の〔例〕とⅠ～Ⅲの漢字しりとりは、1～4の〔条件〕を満たしています。これについて、後の問いに答えなさい。

〔例〕漢 A 作 作 B 景 景 C 議

Ⅰ 法 A 注 注 B 角 角 C 胸

Ⅱ 街 A 明 明白 白 B 力 力 C 破

Ⅲ 母 A 得 得 B 情 情実 実 C 師

〔条件1〕 それぞれのA・B・Cの漢字を適切な順序で並べると、三字熟語になります。

〔条件2〕 どの漢字も、すべて音読みです。

〔条件3〕 どの漢字も、読み方は毎回同じとは限りません。

〔条件4〕 三字熟語は、次のア～オのいずれかの意味です。

- ア 季節の感じをよく表している事物。
イ 影絵が映し出される器具で、「思い出が次々と心の中に現れる」時のたとえとして用いられる言葉。
ウ 自分の考えの中に入れないでおくこと。
エ だしぬけに行動に出るさま。
オ 武道やスポーツで重んじられる三つの要素をならべたもの。

問一 Ⅰ～Ⅲの A C に入る漢字をそれぞれ答えなさい。

※〔例〕では、A「詩」・B「風」・C「物」。

問二 Ⅰ～Ⅲの A C に入る漢字を並べかえて、三字熟語をそれぞれ答えなさい。

※〔例〕では、「風物詩」。

問三 問二で答えた三字熟語の意味として、最も適当なものをそれぞれ「条件4」のⅠ～オから選び、記号で答えなさい。

※〔例〕で答えた「風物詩」の意味は「ア」。

